一般質問　町政を問う

元狭山地域の現状認識と積極的な都市基盤整備を

森　亘　議員（自民）

質問　現在、元狭山地域は、宅地開発が進む一方で、都市計画の未整備が顕著である。未だに通勤・通学に危険な道路、地域住民に不安や憤りを与える迷惑施設の進出計画などは都市計画の遅れに起因していると認識する。そこで、次の4点について町長に伺う。

問①　元狭山地域の現状認識は。

町長　人や車の往来に欠かせない道路のネットワークや、公道の安全環境確保に苦心している。

問②　今後、地権者の理解と協力をどのように得ていくのか。

町長　都が歩道の整備を予定し、前進している部分もあるが、町道の整備については、地権者の協力を得られるよう引き続き交渉を重ねる必要がある。

問③　医療・教育施設など、公益性の高い施設の誘致促進は。

町長　諸施設の需要や既存機能との調整が必要であり、公共機能のあり方を意識し、まちづくりを進めていく。

問④　車両基地を見据えた将来ビジョンは。

町長　建設の具体化を求め、議会と共に早期実現の要請活動を続けていく。

町長　公共機能のあり方を意識し、まちづくりを進めていく

拡幅が期待される都道179号線（栗原新田交差点付近）

会派名
自民＝自民クラブ
公明＝公明党
住民＝住民と自治の会
改革＝改革みずほの会
共産＝日本共産党
民主＝民主党

質問文は、質問者本人が200文字以内で執筆した原文をそのまま掲載し、答弁は内容を要約して掲載しています。

新型インフルエンザ、予防接種の助成施策について問う

竹嶋　久雄　議員（自民）

質問　健康は、人間が生きるために最も大切なことである。昨年発生した新型インフルエンザは、我が国でも大流行し、社会生活に混乱を来した。予防接種のあり方が検討されているが、接種法に基づく以外の経費は住民の自己負担であるため、それが接種率の低下となり、感染の拡大につながる。そこで、新型インフルエンザの予防対策として、町独自の指導や助成施策を考えるべきと思うが、町長の所見を問う。

町長　近年、様々な新薬やワクチンが開発されているが、それらを地方自治体が全額公費負担あるいは助成することは、財政的に限界がある。また、町単独で助成しても接種率が低いとなれば、効果が期待できない。国は今秋から新型・季節性両用のワクチン製造を進めるとしており、接種率の向上と新型インフルエンザの罹患率の低下を期待している。

今後も感染状況を見ながら接種機会の拡大を国に要請していく。また、予防に最も有効である「せきエチケット・手洗い・マスク」の励行を徹底していく。

予防に有効な手洗い

町長　接種機会の拡大を国に要請していく

行政評価システムの成果と展開について問う

近藤　浩　議員（改革）

質問　各地方自治体でも事業仕分けの手法が取り入れられるようになってきている。財政が厳しい中、町でも各施策の見直しなど、さまざまな取り組みがなされていると思う。

瑞穂町では、「行政評価システムが事業仕分けと同様の視点を持つ。」とのことであるが、このシステムが、これまでどのような成果を挙げ、今後どのような展開を考えているのか、町長の所見を伺うものである。

町長　成果は、これまで以上に事業管理が強化されたことである。特に、予算配分・編成作業に効果を発揮し、新たな施策や事業の展開につながっている。最も効果があったのは、職員のコスト意識の向上と、成果重視の管理手法に転換できたことである。

今後の展開としては、行政評価と各種計画を整合させ、あわせて分野別、予算区分別など評価対象項目を絞って、行政評価制度をより効果的に運用する必要があると考えている。

新たな施策の福祉バス

町長　新たな施策やコスト意識の向上につながった

こんな質問もありました

社会教育施設の今後は。

教育長　郷土資料館建設に向け、今年度用地を取得。

図書館については駅西に公用地を確保。